

津幡町の神社と祭神の分析 種谷及び英田編

宮本眞晴

河北潟湖沼研究所河北潟歴史委員会¹
〒920-0267 石川県内灘町大清台302

要約：石川県津幡町の種谷及び英田地区の神社について調査をおこなった。それぞれの神社の沿革や祭神についての調査記録をまとめた。

キーワード：津幡町，種谷，英田，神社，祭神

はじめに

萩坂谷・俱利伽羅谷・笠谷・旧津幡四町及び横浜（旧井上村）に続き、今回は種谷及び英田地区（旧東英田村）の神社について考察する。

英田は、当地では、「あがた」、「あなた」、「はなぶさ」、「えいでん」と呼ばれている。集英社の国語辞典には「英」音：エイ、訓：はなぶさ、(1)すぐれている、(2)はな、はなぶさ、(3)英吉利イギリスの略、とある。講談社の大字典には、「英」【漢】エイ【呉】ヤウ・アウ、エン、(訓)はな、名乗：つね、てる、ひで、ひら、ふさ、はな、はなぶさ(地、姓)、あ(地)、応用として、「英田 アイタ」(1)美作国(岡山県北部)の地名、(2)河内国(大阪府東部)の地名、「英多 アイタ」(1)姓氏、(2)紀伊国(和歌山県)の地名とある。これでは「あがた」「あなた」と読むことについて説得力は無い。

「加賀志徴卷十三 英太郷」の欄の記述に、「和名抄に、加賀郡英太。江多。 忽国加賀風土記に、加賀郡英太郷。公穀六百七十三束。飯粟五百十七丸。三毛田。貢_武器。革。衣等_献_官家。

今英田に作り、是れをアガタと呼べり。和名抄を按ずるに、英太てふ郷名多きにも、伊勢国には安濃郡・飯高郡各英太郷有て、阿加多と訓註し、美作国英多郡は安伊多と訓じ、信濃国埴科郡の英多郷は衣太と註し、吾国の英太と同訓にして、義経記に、信濃国の住人えたの源三とあり。此地の産なるべしと云。此英太郷も今廃して阿加多庄存すと、信濃地名考にいへり。英太はもと縣にて、郡郷の名二字に定められし時、英太あるは英

多の二字に成りたるにやといへり。古事記伝卷二十九に、阿賀多は上り田にて、元は畠のことなり。(後略)」とある。

富樫氏春の二男英田小次郎満家(明徳二年(1391)十二月晦日、内野で討ち死に、享年二十九 法名祖妙)という武士がいるが、彼の所領であったのか。

旧東英田村地区の神社・祭神・沿革

以下、それぞれの集落・神社・祭神・沿革について石川県神社誌に基づき、河北郡誌・津幡町史・加賀志徴(巻13)・平凡社「石川県の地名」の記述を付した。

「河北郡誌」「加賀志徴」は転記の際、漢字・仮名等を書き換え、適宜、句読点、読み仮名を加えた。

文中の年号に西暦を加えた。

【江】は江戸期の集落の様子を示す。

神社名は石川県神社誌に拠った。

1. 甲斐崎神社 旧村社 大熊ト6
主祭神 大禍津日神・健御名方命

由緒 勧請年月詳ならず。明治6年6月村社に列す。同36年7月31日許可を得、同字無格社諏訪社を合祀す。

宮司 十握氏(俱利伽羅神社 津幡町竹橋)。(津幡町史には、「俱利伽羅不動中興22代

¹ 連絡先 tel.076(288)2409 fax.076(288)2962

の勝竜が、明治初年に復飾して十握氏を名乗った」とある)

【以上 石川県神社誌】

字大熊に在り。村社にして大禍津日神・健御名方命・八坂刀売命・誉田別命を祭る。明治6年村社に列せらる。同36年7月31日同字無格社諏訪神社合併の許可を得、同年8月21日之を合祀す。同39年4月11日同字無格社坊賀社合併の許可を得、同年9月20日又之を合祀せり。同45年1月17日神饌幣帛料供進社に指定せらる。【加越能式内等旧社記】貝崎宮神社笠野郷内大熊村鎮座旧社也。

【以上 河北郡誌】

祭神 大禍津日命・健御名方命・八坂刀売命・誉田別尊

春祭 4・9 秋祭 9・9

甲斐崎山に鎮座。貝崎宮ともよばれた旧社。明治36年に無格社諏訪神社、同39年に無格社坊賀社を合併す。現在の拝殿は彦太郎畠の八幡社の建物だったという。

【以上 津幡町史】

貝崎宮 大熊村。宝暦十四年(1751)旧跡等調査。大熊村の氏神、かいさきの宮与申伝候。古き宮にて林茂り何れよりも見へ渡り候へども、何の謂も承伝不申候。

【以上 加賀志徴】

慶長年間(1596~1615)以後代々十村を勤めた兵右衛門家は甲斐国の出身と伝え、元禄十四年(1701)六代目が能瀬村へ引っ越した(「由緒等記帳控」渡辺文書)。延宝元年(1673)十村兵右衛門の子伊兵衛が中心となって加賀藩の援助のもと河北潟を開墾し、潟端新村が成立した(改所旧記)。

【江】文化八年(1811)家数40・人数229(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)家数37・人数200(「高免家人数等書上」亀田家文書)。

三州神号帳には正観音とあり、観音菩薩のぼりの職を所蔵。旧十村役兵右衛門家の守本尊まもりほんぞん十一面観音を安置したともいう(由緒等記帳控)。境内の社叢はアカガシの大木(幹囲2メートル以上)が五本現存するなど「古き宮にて林茂り何れよりも見へ渡り候」と(三州旧蹟志)。老樹が鬱蒼として遠

く外浜の漁師の目標にもなったという。甲斐崎山と集落の間の「ごぼやしき」は浄土真宗本願寺派養法寺(現金沢市)の跡地という。

【以上 平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・甲斐崎神社の「甲斐」は、能瀬の渡辺家の出身地といわれる甲斐を意味し、甲斐の武田家の家臣に大熊氏(元上杉謙信の家臣で後に武田信玄の家臣となった)・小熊氏がいるのはこの地の地名の起源なのか?と考えたが、渡辺氏がこの地へ移ってきたのは養老年間と聞き、古老の伝承では俱利伽羅の合戦の後、源氏の一族が甲斐の国から移住して神社を建立したのが始まりとも言うが真相は?
- ・社殿左の小祠の中に当地には珍しい石に陽刻した五輪塔の板碑・甲斐崎社の割れた石製標額・石仏がある。
- ・小祠の横に五輪塔が数基と陽石らしきものがある。
- ・社叢は日本海からよく見えたらしく、漁場を見定める「山だめ」の目標となった。そのため七塚近辺の漁師の信仰も篤かったという。
- ・祭神四柱のうち合併された「諏訪」の祭神はタケミナカタとヤサカトメである。「甲斐崎」の祭神は観音であったのでオオマガツと思われる。残る「坊賀社」の祭神はホンダワケとなるので、八幡であろう。

2. 八幡神社 旧村社 小熊ウ18

主祭神 応神天皇

由緒 創立年代不詳。明治6年村社に列す。同42年上矢田鎮座愛宕社を合併。昭和22年愛宕社を分離。

宮司 加藤氏(清水八幡神社 津幡町清水)
(津幡町史には、「清水八幡神社の別当(僧官の一つ)だった山伏本山派の宝蔵寺が明治初年に復飾した家」とある)

【石川県神社誌】

字小熊に在り。村社にして応神天皇・伽具土命を祀る。明治6年6月村社に列せらる。同42年8月16日許可を得て同字上矢田の村社愛宕社を合

祀す。同43年3月31日神饌幣帛社に指定せらる。
【河北郡誌】

祭神 応神天皇

春祭 4・9 秋祭 9・9

藤吉神様をも祭る。明治42年に上矢田の愛宕神社を合併したが昭和22年分離す。

【津幡町史】

寛文年間(1861～72)の百姓数10(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数27・人数155。(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数37,人数201(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

集落北部山麓の八幡神社は村人が発掘したという石像藤吉神を合祀している。

集落中部にあった真宗大谷派建法寺(現廃寺)は元文元年(1736)の創建と伝える(寺院明細帳)。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・昔、藤吉という納付が鋤を振っていた時「藤吉いたいぞ」という声を聞いたような気がした。かまわず仕事を続けようとする、また「藤吉いたいぞ」と叫ぶので、驚いてその辺りをよく見ると石の像らしきものが埋まっていた、顔に血がにじんでいた。藤吉は石像を掘り起こし、大峰にある八幡神社に預けた。

【「津幡町のみてあるき 第2版」津幡町教育委員会発行】より

- ・「河北郡誌」にある祭神「伽具土命」は上矢田の愛宕神社を合併していた頃の祭神であり、昭和22年に上矢田へ分祀した。
- ・境内に陽石らしきものがある。

3. 池ヶ原神社 旧村社 池ヶ原5-4

主祭神 応神天皇・大山咋神

由緒 創立年代不詳。明治41年2月、村社日吉神社と無格社八幡神社を合併して現社名となる。同年9月現在地に移転。

宮司 加藤氏

【石川県神社誌】

字池ヶ原に在り。村社にして応神天皇・大山咋命を祀る。明治41年2月18日同字村社日吉神社・無格社八幡神社を合併し、社号を池ヶ原神社と改め、現今の地に移転するの許可を得、同年9月30日之を合祀す。同43年3月31日神饌幣帛料供進神社に指定せらる。

【河北郡誌】

祭神 応神天皇・大山咋神

春祭 4・10 秋祭 9・10

明治41年に村社日吉神社・無格社八幡神社を現在地に移転合併して現社名を称したものと。

【津幡町史】

寛文年間(1861～72)の百姓数19(高免付給人帳)。寛保三年(1743)の家数39。同年6月の地滑りで大破した家数5,破損家数15,用水堤割れ損じ2ヶ所。集落南東部と北西部の田地が被害を受けた(「政隣記」加越能文庫)。その後も宝暦二年(1752)にも同様の地滑りが70～80日続いた。文化八年(1811)の家数41・人数235(「河北郡村々書上帳」林文書)。安政二年(1855)の家数63・人数328(高免付家数人数等書上)亀田文書)。

集落中央の丘に樹高25mのモミ(トガ)等の社叢がある池ヶ原神社は日吉神社と八幡神社を合祀して現在地に移った。

集落南部の真宗大谷派敬楽寺は慶長九年(1604)の創立(貞享二年(1685)寺社由緒書上)。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・「平凡社」の記述にある社叢は、数年前の台風で被害を受け処分され、すっかり明るくなっている。
- ・社殿右後ろに石仏がある。

4. 白山神社 旧村社 興津ナ1

主祭神 伊邪奈美之命

由緒 創立年代不詳。明治5年村社に列す。宝暦十四年(1764)6月金沢住仏師松井冠清作十一面観音を奉納す。

宮司 松本氏(松尾神社 金沢市鷺町)。他に七野・杉瀬の神社も

【石川県神社誌】

字興津に在り。村社にして菊理姫命くくりひめのみことを祭る。明治六年村社に列せらる。

【河北郡誌】

祭神 伊邪奈美之命

春祭 4・6 秋祭 10・13

興津うぶすながみの産土神。

【津幡町史】

加賀国河北郡と能登国羽咋郡の境。寛文年間(1861～72)の百姓数26(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数59・人数317(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数65・人数316(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

集落東部真宗大谷派明円寺は越中国礪波郡城端善徳寺(現富山県南礪波市)の道場で、明治四年(1871)寺号免許、同十二年寺号公称を許された。蓮如筆六字名号を所蔵する。西部の同派憶念寺は文明年間(1469～87)の創立と伝え、越中国高岡超願寺の道場であった。明治三年寺号免許。同十二年寺号公称を許された。池ヶ原の同派敬楽寺は慶長九年(1604)当地から移転したとも伝える(河北郡誌)。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

・境内に五輪塔の部分の数基ある。

5. 白山社はくさんしゃ 旧村社 菩提寺ワ93

主祭神 菊理姫命くくりひめのみこと

由緒 祭神勧請の年月は不明。明治6年6月村社に列せられた。

宮司 瀬戸氏(瀬戸菅原神社 旧高松町瀬戸)。上大田・下河合の神社も。(津幡町史によると、瀬戸氏は明治初年まで当山流山伏天竜寺が復飾した家)

【石川県神社誌】

字菩提寺に在り。村社にして菊理姫命を祀る。明治六年六月村社に列せらる。

【河北郡誌】

祭神 菊理姫命

春祭 4・8 秋祭 10・18

菩提寺の産土神。

【津幡町史】

寛文年間(1861～72)の百姓数6(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数15・人数106。安政二年(1855)の家数26・人数140(「高免家数人数等書上」亀田文書)。集落北方から切出された岩は竈・敷石に用いられた(三州旧蹟志)。

当地には村名と同名の菩提寺という真言宗寺院があったが、天正十二年(1584)の末森合戦のさい佐々成政軍のため焼失したと伝える(河北郡誌)。領家の広濟寺の前身は当地の真言宗寺院であったともいう。「加賀志徴」がひく「遊三國嶺記」によれば、菩提寺跡に残る地名として堂屋敷・仏坂・古堂・宮谷・地藏堂・宮山などの地名をあげ、付近には石塔三基・古墳三基があると伝えている。

菩提寺峰西斜面に弁慶伝承をもつ高さ約6mの立石たていしとよばれる巨岩がある。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

・境内に五輪塔の部分の数基ある。

6. 出雲神社いずも 旧村社 種り 40 - 1

主祭神 素盞鳴尊すさのおのみこと

由緒 創立年代不詳。明治6年村社に列す。もと白山社と称したが明治30年現社名に改称。同41年平野鎮座白山社を合併。昭和23年3月白山社を分離。神社社叢は津幡町指定文化財となっている。

宮司 加藤氏

【石川県神社誌】

字種に在り。村社にして素盞鳴尊・伊弉那美尊・菊理比咩命を祭る。初め白山社と称し、明治6年村社に列せらる。同13年2月出雲神社と改称し、同41年二月27日同字無格社白山社合併の許可を受け、同42年之を合祀せり。

【河北郡誌】

もと白山神社と称したが明治13年現社名に改称。同42年平野の白山社を合併、昭和23年これを分離す。社叢は津幡町の文化財に指定されている。

【津幡町史】

寛文年間(1861～72)の百姓数28(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数59・人数260(「河



写真1. 出雲神社の盤持石・5斗8斗1石とある。

北郡村々書上帳」同文書)。

集落内に本覚寺(単立), 妙成寺(真宗大谷派)がある。ともに文明年間(1469~87)に創立された道場と伝え, 明示十二年寺号公称を許された(寺院明細帳)。

幹囲3m余のスタジイの巨木2本を含む社叢がある。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・境内に盤持石3個(写真1)。
- ・「タネ」は「多根」で開墾された土地の意。七尾市には多根町があり, 石動山頂が集落の南方に見える。

7. 白山神社 平野ク12

主祭神 菊理媛神

由緒 創立年代不詳。古くは妙義権現と呼ばれていた。明治40年種鎮座出雲神社に合併。昭和23年分離独立。

宮司 加藤氏

【石川県神社誌】

発行当時(大正9年)種の出雲神社に合併のため記載無し。

【河北郡誌】

春祭 4・17 秋祭 9・17

古くは妙義大権現とよばれた。明治42年に種の出雲神社に合併されたが昭和23年分離す。

【津幡町史】

種村・興津村・池ヶ原村三ヶ村の出村であった

という(三州地理雑誌)

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・白山神社の御神体は石製の鏡型をしたものであるが, 右には虚空蔵菩薩, 左には「妙義」ではなく「妙義大権現」と刻してある。(妙と妙は同字)石動山系の真言密教の系統であろう。

8. 水上社 旧村社 中山ソ51 - 甲

主祭神 少名彦神・菅原大神

由緒 創立年代は明確ではないが古来中山区の産土神として崇敬せられ, 明治6年村社に列した。境内にかつて若者が力を競った盤持の石がある。

宮司 横江氏(市姫神社 金沢市尾張町2丁目)。別所・加茂・谷内・下矢田の神社も。

【石川県神社誌】

字中山に在り。村社にして少名彦命・菅原大神を祀る。明治6年村社に列せらる。

【河北郡誌】

中山の今畠にあり, 古くは薬師社とよばれた。

【津幡町史】

寛文年間(1861~72)の百姓数12(高免付給入帳)。文化八年(1811)の家数27・人数133(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数29・人数159(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

集落の東の丘陵中段今畠に鎮座する水上社は, 三州神号帳に薬師とみえる。

集落南部の真宗大谷派妙覚寺は文明年間(1469~87)に創立され, 明治十二年(1879)寺号公称を許された(寺院明細帳)。古くは法道道場と称されたという。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・津幡町で菅原道真を祀った神社は少なく, 下中の「菅原神社」と当地中山の「水上社」のみである。必ずしも学問の神としての信仰ばかりではなく, 雷避けの信仰もある。
- ・少名彦命は温泉と医薬の神である。津幡町にはスクナビコナを祀った神社は浅谷(少彦名神

社)・八ノ谷(八幡神社)・川尻(医師神社)・上野(少名彦神社)・原(小原神社)・北横根(少彦神社)・南横根(少彦神社)がある。明治6年以前から祀られていたとなると、鉱泉の存在は相当古いと考えられる。

- ・石川県立歴史博物館紀要 第十八号 二〇〇六「都市を誘う温泉 - 金沢近郊における温泉開発と日帰り入浴行楽 - 大門 哲」の一節には、「(14)中山鉱泉 / 津幡町中山 / 戦前期か 開湯年は不明。現在の五十年代以上の人々が入浴の経験をもつ。集落の東方の山際に自然湧出していた源泉を井戸まで引いて溜め、それを手押しポンプでくみあげて沸かしていた。湯は塩気があり、デキモンやクサに大変な効果があった。サツキあがりにキヤ峠をこえて湯治にくるハマの連中で大変な賑わいをみせたという。旅館名はさだかでないが、人々は中山の風呂屋と呼んでいた。部屋は一階に二部屋、二階に二部屋ほどあった。昭和三十年ころに廃業した。源泉は田圃に染み出て塩害をおこしたために埋めたという。」とある。

9. ^{あたご}愛宕神社 旧村社 上矢田イ 36

主祭神 ^{かくつちのみこと} 伽具土命

由緒 創立年代不詳。明治42年小熊鎮座八幡神社に合併。昭和22年8月分離独立。

宮司 加藤氏

【石川県神社誌】

発行当時(大正9年)小熊の八幡神社に合併のため記述は無い。

【河北郡誌】

春祭 4・24 秋祭 9・24

明治42年に小熊の八幡神社に合併されたが昭和22年分離す。

【津幡町史】

寛文年間(1861~72)の百姓数14(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数26・人数138(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数22・人数132(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

参考

- ・集落南西部に「矢田の湯」がある。前記「 - 金



写真2. 上矢田の薬師如来。

沢近郊における温泉開発と日帰り入浴行楽 - 」によると、「(10)矢田鉱泉 / 津幡町矢田 / 明治40年開業(前略)鉱泉を最初に開業したのは地元の池田家である。そのあと昭和初期ぐらいに中川家が営業をひきついだ。現在中川家には明治四十年の銘をもつ効能由来額が遺されている。(中略)あとをうけついだ中川家は養鶏業と旅館業を生業としていた。旅館名はきよのや旅館。地元住民はヨザヤと通称した。源泉と旅館のあいだの田圃のなかに竹の樋を埋めて引湯したため、馬耕の際、しばしば蹄が竹にあたって割れ、そこから鉱泉が漏れ、田圃の泥が黒くなったという。(後略)平成十年に現当主が「やたの湯」という看板をかかげ食事もとれる施設として再興した。(以下略)」とある。

- ・「やたの湯」の裏山に「ユのカン様」「薬師様」と呼ばれる仏像を祀った小祠があるが、この像はかつて土砂崩れで埋まった源泉を掘り起こした際、土中から出てきたものという(写真2)。

10. ^{すわしや}諏訪社 旧村社 下矢田又 19

主祭神 ^{たけみながたのかみ} 健御名方神

由緒 創立年代は明確ではないが、古来下矢田区の産土神として崇敬せられ、明治6年村社に列した。境内に五輪塔を遺す。

宮司 横江氏



写真3. 下矢田諏訪神社の老杉の下にある五輪塔。 Sansukurittu が彫ってある。

【石川県神社誌】

字下矢田に在り。村社にして健御名方命を祭る。明治6年村社に列せらる。

【河北郡誌】

春祭 3・28 秋祭 8・28

下矢田の寺山に鎮座し、戦後まもなく新築した。

【津幡町史】

寛文年間(1861～72)の百姓数6(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数18・人数83(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数19・人数103(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

諏訪社が集落北方の寺山に鎮座。社叢に樹高25mの大杉などがある。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

・神社境内の左、大杉の根元に大ぶりの苔むした五輪塔が数基ある。水輪に梵字が彫られているのがはっきり見える(写真3)。

11. ^{しらやま}白山神社 旧村社 ^{みかど}御門 1 - 28

主祭神 菊理媛神

由緒 創立年代不詳。明治6年村社に列す。もと白山社と称したが、明治30年現社名に



写真4. 御門白山神社の五輪塔と宝篋印塔。

改称。

宮司 加藤氏

【石川県神社誌】

字御門に在り。村社にして菊理姫命を祭る。明治6年村社に列せらる。

【河北郡誌】

祭神 菊理媛命

春祭 4・18 秋祭 9・18

御門及び御門出村の産土神。

【津幡町史】

見門とも記す。村名由来(加越能文庫)によれば、村名は昔御門が滞在したことによるとされ、「三州志」は承久の乱後順徳上皇が佐渡へ流されたとき、逆風にあって一時当地に滞在したという口碑を記す。

寛文年間(1861～72)の百姓数25(高免付給人帳)。文化八年(1811)の家数39・人数200(「河北郡村々書上帳」同文書)。安政二年(1855)の家数45・人数203(「高免付家数人数等書上」亀田文書)。

真宗広勝寺は、加茂七社明神のもと神職が文明十八年(1486)真宗に帰依して当地に創立したと伝え、元和三年(1617)京都東本願寺から「光楽寺門下広勝寺祐心」宛の教如絵像、同六年木仏、同八年聖徳太子絵像・七高僧絵像を下付された(「申物帳」大谷大学蔵)。河北郡分旧記(亀田文書)は「屋くせん寺」「大じやう寺」という寺屋敷跡を記し、能瀬川左岸の「おたち」という三歩ほどの畑地に御門が滞在したと伝えている。

【平凡社「石川県の地名」】



写真5. 御門山の中のコレラ神.

参考

- ・境内に五輪塔, 宝篋印塔が多数ある(写真4).
- ・出村(町)境の地藏堂の前に五輪塔の部分が2基ある.
- ・集落内の地藏堂の周囲に10数基の五輪塔があり, 地藏堂内部に安置されている地藏は宝篋印塔の相輪部分を利用したもので, 顔の部分は相輪の宝珠である.
- ・集落北部の山頂の竹林に, コレラ神と呼ばれる石像を納めた小祠がある(写真5). 祠は再建されたものでかなり新しく, 最初からこの場所にあったものか? コレラは幕末から明治にかけ数年毎に猛威を振るった. この場所に罹患した患者を隔離したものか, 病死した人達を埋葬した場所なのか?

12. ^{はちまん}八幡神社 旧村社 ^{やち}谷内メ17

主祭神 ^{はちまんのかみ}八幡神

由緒 創立年代は明確ではないが, 古来谷内区の産土神として崇敬せられ, 明治6年村社に列した. 境内に五輪塔2基を遺す.

宮司 横江氏

【石川県神社誌】

字谷内に在り. 村社にして応神天皇を祭る. 明治6年村社に列せらる.

【河北郡誌】

祭神 八幡神

春祭 4・15 秋祭 8・25

谷内のトウイに鎮座.

【津幡町史】

寛文年間(1861~72)の百姓数24(高免付給人帳). 文化八年(1811)の家数34・人数175(「河北郡村々書上帳」林文書). 安政二年(1855)の家数32・人数150(「高免家数人数等書上」亀田文書).

集落西端の真宗養楽寺は文禄元年(1592)祐専の開創とされる(貞享二年寺社由緒書上). もと天台宗で安養楽邦寺と称したとも伝える(寺院明細帳). 慶長七年(1602)七月とみられる本願寺教如の河北郡惣坊主衆・同門徒衆宛の書状などを所蔵.

谷内石山遺跡は弥生時代末から古墳時代初頭にかけての集落遺跡で, 能瀬川中流を北に望む丘陵中腹の平坦地に立地. 昭和五四年(1979)以来, 土砂採掘に伴って発掘が実施され, 周溝を伴う竪穴住居跡や土抗・ピットなどを検出している. 遺跡上方の尾根上には谷内石山古墳群(未掘)があり, 丘陵下の平地には能瀬石山古墳が所在する.

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・集落南側の神社参道を登ると, 両側の杉の巨木は(数年前の台風のためか?) 何本も伐られ, すっかり明るくなっている. 神社誌に記載された五輪塔2基は, 石段を上がりきった拝殿の手前左右の草むらに水輪部, 火輪部が各1基あるのみ.

谷内には「椀貸し(貸せ)」の洞窟があった. この椀貸し(貸せ)伝説は, 南中条, 金沢市月影町などにもある. 全国的に, 山地が平野と接するところにあるその様な洞穴に同様の伝説があるが, 「山の民」と「里の民」の接点での物々交換から発生した伝説と言われている.

13. ^{ふじ}富士神社 旧無格社 領家八224

主祭神 ^{あまつひこにぎのみこと}天津彦瓊々杵尊・^{このはなさくやひめのみこと}木花開耶姫命・^{すくなびこなのみこと}少彦名命

由緒 もと延喜式内小浜神社境内撰末社にして天正十四年(1586)五月前田利家小浜神社の撰末社数十社再興修理せらる. 翌十五年三月小浜神社境内より当地に移転造営す. 明治6年8月石川県より小浜神社附属社に

取りきめらる。大正5年2月19日，同字少彦名神社と合併。富士神社の祭神は三柱となる。

宮司 齋藤氏（小浜神社 内灘町大根布）。太田・南中条・川尻・横浜・中須加・五反田・中橋・舟橋・能瀬の神社も。（明治前は河北郡内の神主の触頭だった。河北潟縁の神社を支配していた（津幡町史））

【石川県神社誌】

字領家に在り。無格社にして天津彦火瓊々杵尊・木花開耶姫命・少彦名命を祀る。初め領家に神地のみを存して社殿を失えるものあり。依りて天正十五年三月本郡内灘村小浜神社境内なる末社の神を勧請して当社を創立す。大正5年2月19日同字無格社少彦名神社合併の許可を得，同6年4月16日之を合祀せり。

【河北郡誌】

祭神 あまつびこびこほのくにぎのみこと 天津彦火瓊々杵尊・木花開耶姫命・
すくなひこなのかみ 少彦名神

春祭 4・18 秋祭 9・18

もと富士社と称す。小浜神社附属社。大正6年に無格社少彦名神社を合併す。

【津幡町史】

津田鳳卿の「遊三国嶺記」に「憩領家茶店，足利氏中葉，富樫泰高為領家地頭職，居此」とあり，富樫（英田）氏が居住したと伝承されている。

寛文年間（1861～72）の百姓数26（高免付給人帳）。文化四年（1807）の家数49・人数245（「河北郡村々書上帳」林文書）。安政二年（1855）の家数55・人数290（「高免家数人数等書上」亀田文書）。

広濟寺の前庭の龍松寺（単立）は広濟寺の前寺号を継いだともいわれ，広濟寺の金沢安江木町移転を受け，延享年中（1744～48）に創建されたと伝える（寺院明細帳）。現在廃絶状態。

【平凡社「石川県の地名」】

龍松山広濟寺。本尊阿弥陀如来。永正八年（1511）光受が当地に開創したとするが，寺院明細帳はもと真言宗龍松寺で，文明三年（1471）北陸巡錫の蓮如に徳齋が皈依して改宗したとする。現集落の北西マツチャマ（松山）にあったとされるが（河北郡誌），菩提寺にあったとも伝えられ



写真6. 富士神社社殿左奥にある五輪塔。

る。（中略）天正十二年（1584）佐々成政によって焼かれたといい（河北郡誌），慶長二年（1597）金沢安江木町（英町）に移転したというが，それまで現領家集落の西側，河北潟縁にあったとの所伝もある。金沢移転後も「英田広濟寺」を称し…明治16年（1883）金沢から旧地領家の現在地に移転した。（後略）

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・社殿左奥に五輪塔10数基が玉垣に囲まれ整然と並べられている（写真6）。
- ・富士神社の境内右に新しい三猿堂がある。普通，三猿堂は日吉神社のお使いの猿を祭ったものであるが富士神社の祭神に日吉の祭神はいない。
- ・合祀された「少彦名」は温泉と医薬の神。指江・領家は温泉，鉱泉の水脈があると昔から言い伝えられている。この地にも「湯座屋」があったのだろうか。

14. ^{ひめ}比咩神社（表能瀬）旧無格社 能瀬イ46
主祭神 ^{ひめのおかみ}比咩大神

由緒 もと延喜式内小浜神社境内摂末社にして永享二年（1430）七月小浜神社境内より当地に移転造営す。天正十四年（1586）五月前田利家小浜神社摂末社を再興修理された折，当神社も修理せらる。明治6年8月石川県より小浜神社附属社に取りきめらる。

宮司 齋藤氏

【石川県神社誌】

字能瀬に在り。無格社にして比咩大神を祭り、永享二年七月の勸請にかかる。天正十四年五月国主前田利家本郡内灘村なる小浜神社の撰末社再興の料として米一百俵を給う。本社も亦其の際に修理せられしものなりという。

【河北郡誌】

秋祭 8・22

表能瀬にあり。宝暦九年(1759)の書上には祭神を市杵島姫命とし、文化九年(1812)の書上では大宮比売命とする。小浜神社附属社。

【津幡町史】

能勢とも記せられた。

寛文年間(1861～72)の百姓数23(高免付旧人帳)。文化八年(1811)の家数124・人数632(「河北郡村々書上帳」林文書)。安政二年(1855)の家数130・人数686(「高免家数人数等書上」亀田文書)。

「三州旧蹟志」によれば、集落は町能瀬・中能瀬・浦能瀬(裏能瀬)があげられ、慶応元年(1865)の河北郡分間絵図(高樹文庫)には能登街道沿いに能瀬、能瀬川河口近くの右岸に浦能瀬、同左岸に中能瀬と記す。

真宗大谷派願慧寺派文明年間(1469～87)の創設と伝え、明治二年(1869)寺号公称を許された(寺院明細帳)。同寺に同八年(1875)能瀬小学校が開かれた。

能瀬石山古墳が能瀬川左岸の平地に所在した。昭和初年畑地開墾中に遺物が出土している。径10m程度の円墳とされるが、埋葬施設などの詳細は不明である。出土品には勾玉一と鹿角装を含む直刀四、鉄鏃約二十などがあり、築造年代は古墳時代後期前半頃と推定される。なお墳丘はすでに消滅している。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・比咩神社には英田の他の神社境内に見られる石塔は無い。能登街道の種谷へ曲がる十字路にある地藏堂の前に五輪塔の部分がある。
- ・神社祭神の性格からみれば、その昔、市が開かれていたと思われる。



写真7. 日吉神社の小祠。

15. ^{ひよし}日吉神社(浦能瀬) 旧無格社 能瀬ヤ46

主祭神 ^{おおなむちのみこと}大己貴命・大山咋命

由緒 もと延喜式内小浜神社境内撰末社にして天正十四年(1586)五月前田利家小浜神社の撰末社數十社を再興修理せらる。翌十五年小浜神社境内より当地に移転造営す。明治6年8月石川県より小浜神社附属社に取りきめらる。

宮司 齋藤氏

【石川県神社誌】

字能瀬に在り。無格社にして大山咋命・大己貴神を祀る。天正十五年八月本郡内灘村なる小浜神社境内より遷座せしめ奉る。

【河北郡誌】

春祭 4・13

浦能瀬にあり、山王さんとよばれる。小浜神社附属社。

【津幡町史】

参考

- ・拝殿内に池田九華の屏風絵馬(屏風を絵馬にしたたてもの)がある。境内に三猿堂がある。撰社二社。五輪塔の部分数基。また能瀬の追分にあったと思われる道標が移設され立っている。追分の祠に五輪塔の部分数基。(写真7)
- ・日吉神社の社紋は法輪。天台密教の法具を表わす。

16. ^{かも}加茂神社 旧村社 加茂へ76

主祭神 ^{かものかみ}加茂神・^{いざなみのかみ}大山咋神・^{たけみなかたのかみ}伊弉册神・^{たけみなかたのかみ}建御名方神

由緒 創立年代は明確ではないが、古来加茂区の産土神として崇敬せられ、明治6年村社に列した。明治の初期、区内5箇所にあつた小祠を合併した。かつて京都賀茂社の御厨であったゆかりの神社とか、式内三輪神社と考えられたこともあったが、確証はない。

宮司 横江氏

【石川県神社誌】

字加茂に在り。村社にして大山咋命・健御名方命・伊弉册命・天照大神・応神天皇を祭る。明治6年村社に列せらる。

【河北郡誌】

祭神 加茂神・(配祀)大山咋神・伊弉冉神・
建御名方神・天照皇大神・八幡神

春祭 4・9 秋祭 8・26

「加賀国式内等旧記」では英太賀茂神社と称し、旧伝に往古以来山城賀茂の御厨なり、故に勧請すという見ゆ。地方の旧社として知られる。旧明細帳では祭神を、加茂神をかかげず、大山咋神をはじめ五神とする。

賀茂とも記す。

当地はかつて京都上賀茂社領で、宝暦二年(1752)の横山賀茂神社縁起(加賀史料集成)によれば、同社は天平勝宝五年(753)英田郷賀茂邑に垂迹し、大同元年(806)金津庄鉢伏村(現かほく市)に遷座したと伝える。地名も「加茂社」に由来するとされる。

【津幡町史】

寛文年間(1661～72)百姓数21(高免付給人帳)。文化八年(1811)家数34・人数180(「河北郡村々書上帳」)。安政二年(1855)家数36・人数183。

【「高免家数人数等書上」亀田家文書】

賀茂社 加茂村。当社をば或は式の賀茂神社也といえれど、式社は金津庄横山なる神社にして、此加茂村なるは、其さき賀茂の御厨なるを以て、勧請せし社也といえり。百練抄。堀河天皇寛治四年(1090)七月二十三日の條に、賀茂上下云々。又分置御厨於諸国。と有て、当国にては金津庄、即ちかの御厨なるよし下條に見ゆ。されば往古此加茂村辺までも、彼庄内ならん。いにし

え諸国伊勢・賀茂等の御厨とて社領の地有て、皆其神をば勧請せしとぞ。(以下略)

桂清水 加茂村。元文三年(1738)加州産物記。河北郡加茂村の持山に清水有之、産神加茂明神の御手洗の由。かつら山と云うやまの二三間高より出申故、往古よりかつらの清水と唱申候。

宝永元年(1704)の肝煎答書(「河北郡分旧記」亀田文書)によれば、集落内に貴船入(ママ)明神(註 入は大の誤記か?)、東山麓に諏訪八幡、北山麓に山王権現・神明・白山・東の山の出崎に「かつら」という滝が祀られていた。以上を総称して加茂七社明神ともいわれた(寺院明細帳)。集落の東の「かつら山」から湧出する清水は加茂明神の御手洗という。

【加賀志徴】

集落南の真宗大谷派本蓮寺は文政十一年(1826)の創立。同派安受寺は文明年間(1469～87)の創建と伝えられるが明治年間に廃絶(寺院明細帳)。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・社殿左に五輪塔が数基並べてある。
- ・加茂七社といわれる神社の祭神を考えると
加茂神社...加茂神
貴船大明神...(閻魔神・岡象女神) 記載なし
諏訪...建御名方神
八幡...八幡神(応神天皇・神功皇后など)
山王権現...大山咋神
神明...天照大神
白山...伊弉册神

である。

- ・かほく市横山の東端、亀山に鎮座する旧県社(「延喜式」神名帳にみる加賀郡一三座の賀茂神社に比定される)の横山賀茂神社縁起(宝暦二年(1752))によると、祭神は賀茂別雷神で、貴布禰神と天照大神を配祀。天平勝宝五年(753)加賀郡英田郷の加茂邑に影向。大同元年(806)鉢伏村に遷座。翌二年に神託によって現在地に移ったと伝える。

- ・加越能式内等旧社記では、「英太加茂神社英太郷賀茂村鎮座。旧伝云往古以来山城賀茂御厨也。故勸請云。」とある。
- ・大日本地名辞書には、「東英村に加茂・領家等の大字あり。式内三輪神社は加茂にあらざる歟。」とある。

17. ^{はちまん}**八幡神社**（裏舟橋）旧無格社 舟橋八 157
 主祭神 ^{ほんだわけのみこと おきながたらしひめのみこと ひめのおおかみ} 菅田別尊・気長足姫尊・比咩大神・
^{あめのこやねのみこと}天児屋根尊

由緒 もと延喜式内小浜神社境内摂末社にして永享二年（1530）小浜神社境内より移転造営す。天正十四年（1586）五月前田利家小浜神社の摂末社を再興修理せらる。その折、当神社も修理せらる。明治6年石川県より小浜神社の附属社に取りきめらる。大正5年2月同字藤原神社と合併社殿新築し四柱の神を祀る。

宮司 斎藤氏

【石川県神社誌】

字舟橋に在り。無格社にして菅田別命・気長足姫命・比咩大神を祭る。永享年中の勸請にかかり、内灘村小浜神社の末社なり。天正十四年前田利家小浜神社の摂末社再興の為め（ママ）米一百俵を給せらる。依りて翌十五年三月社殿に修理を加えたりという。

【河北郡誌】

春祭 昭和48年4・15 秋祭 8・26

裏舟橋にあり、もと宇佐社と称した。大正6年に表舟橋の無格社藤原神社を合併。昭和43年に社殿を新築す。小浜神社附属社。なお藤原神社は旧のまま表舟橋に祭られている。

【津幡町史】

集落は本村と出町（大豆谷）からなる（三州地理雑誌）。寛文年間（1661～72）百姓数31（高免付給人帳）。寛延三年（1750）河北潟と不湖の縁辺は水損を受けやすく云々（「河北郡引免根帳」林文書）。文化八年（1811）家数88・人数451（中略）河北潟満水時は水損所であった（「河北郡村々書上帳」林文書）。文政九年（1826）の河北郡図によれば能瀬川と津幡川の河口が土砂の堆積

で河北潟に延びており、その大きな入江は舟橋不湖と記せられている。宝暦十四年（1764）には同不湖の浅瀬は水田化され、周辺には水草が茂り諸鳥が生息していたという（三州旧蹟志）。安政二年（1855）家数89・人数409（「高免家数人数等書上」亀田家文書）。

八幡神社は加茂川下流左岸の沖積地、裏舟橋の西部に鎮座し、もと宇佐社とも称された。大正六年（1917）表舟橋の藤原神社を名目上合祀したが、同社は旧能登街道の東側丘陵中腹に現存する。

真宗大谷派乗船寺は文明年間（1469～87）川尻性光寺開祖の弟によって開かれたと伝える。

【平凡社「石川県の地名」】

参考

- ・八幡神社社殿前に多分「鳥除け」と思われるネットが張ってあるが、その下端の重しに五輪塔の火輪や地輪を使っている。
- ・参道の左右に安政四年（1857）奉納の石燈籠一対（油屋の家紋「釘抜き紋」が刻されている）がある。寄進者は津幡宿「油屋與三兵衛」。油屋一族は浄真寺（能瀬御坊）に加賀爪の現在地に寺の敷地を提供し、明治十二年（1879）寺は移転した。真宗大谷派浄真寺は文明年間（1469～86）能瀬村に創建され、明治二年寺号公称。
- ・河北郡誌に「乗船寺。字舟橋に在り。真宗大谷派にして別助音地とす。文明中械崎吉之丞といふ者、本願寺蓮如に帰依して道場を開き、明治二年八月二日金沢藩庁より寺号公称の許可を受く。但し井上村性光寺の由緒によれば、本寺の開祖は性光寺の弟にして、蓮如より兵部の名を与へらると記せり。械崎吉之丞が兵部と同人なりや否やを知らず」とある。

18. ^{ふじはら}**藤原神社**（表舟橋）

石川県神社誌に記載無し。

字舟橋に在り。無格社にして^{あまつこやねのみこと}天津児屋根命を祀る。天正十五年八月本郡内灘村なる小浜神社境内より遷座しめ奉る。

【河北郡誌】

津幡町史に記載無し。

参考

- ・藤原神社境内には、英田地区の他の神社境内に見られる石造物は無い。

祭神の出自と性格

以下に、これまで挙げた18座の神社の祭神と性格について分析する。50音順に示し、祭神を同じくする全国の有名神社も記した(註 天神族: あまつかみ 高天原系の神, たかまがはら 地祇族: くにつかみ 出雲系の神, いずも 天孫族: てんそん 神武天皇以後の系統, 人物神: 上記以外の歴史上の偉人)

1. 天津児屋根命【天神族】

あまつこやねのみこと
天津児屋根命 [藤原神社(表舟橋)]
あまつこやねのみこと
天児屋根尊 [八幡(はちまん)神社(裏舟橋)]...

名目上、藤原神社は石川県神社庁の記録では八幡神社に合祀されている。

- ・父は興台産靈神, 妻は天美津玉照比売命。天岩戸神話に登場する神々の一人で美声の持ち主。祝詞の神。
- ・中臣(のちの藤原)氏の遠祖で春日神社の祭神の一人。言霊信仰のルーツ。
- ・国家安泰・産業繁栄・学業成就・出世の神
- ・奈良市・春日大社, 茨城県鹿島市・鹿島神宮, 千葉県香取市・香取神宮, 大阪府東大阪市・枚岡神社

2. 天津彦瓊々杵尊【天神族】

あまつひこにぎのみこと
天津彦瓊々杵尊 [富士神社(領家)]
あまつひこほのにぎのみこと
天津彦火瓊々杵尊 [富士神社(領家)]
あまつひこひのにぎのみこと
天津彦彦火瓊々杵尊 [富士神社(領家)・河北郡誌]

- ・アマテラスの孫。父は天之忍穂耳命, 母はあめのおしほみのみこと 高幡豊秋津師比売命, 妻はこのはなさくやひめのみこと 「15 木花開耶姫命」。
- ・稲穂が豊かに実る国の壮健なる男子という意味の名。
- ・妻との間に海幸彦・山幸彦が産まれた。山幸彦の孫が神武天皇。
- ・アマテラスに命ぜられ、豊葦原の瑞穂国へ三種

の神器を持ち降臨した。

- ・交通安全・五穀豊穰・国家安泰・富貴栄達の神
- ・長野県穂高町・穂高神社 山梨県一宮町・浅間神社 静岡県富士宮市・浅間神社

3. 天照大神【天神族】

あまてらすのおおかみ
天照大神 [加茂神社(加茂)・河北郡誌]
あまてらすのおおかみ
天照皇大神 [加茂神社(加茂)・津幡町史]

- ・父はイザナギ。皇室の祖先とされている。火傷で死んだ妻4イザナミを尋ねていった黄泉の国から逃げ帰ったイザナギは, ちくし 筑紫(九州)の日向(宮崎)の橋のおど 小門の安波岐原で, あはぎはら 穢れを洗い落とすため禊ぎをした際, 左目を洗った時, 光とともに生まれた美しい女神。高天原の支配者。
- ・太陽の神。養蚕・織物の神。国家安泰・産業繁栄の神。
- ・アマテラスを祭る神社は三重県・伊勢の皇大神宮

4. 伊邪奈美之命【天神族】

いざなみのみこと
伊邪奈美之命 [白山神社(興津)]
いざなみのみこと
伊弉那美尊 [出雲神社(種)・河北郡誌]
いざなみのかみ
伊弉冉神 [加茂神社(加茂)・津幡町史]
いざなみのかみ
伊弉册神 [加茂神社(加茂)・河北郡誌]

- ・夫イザナギとともに数多くの神々を産んだが, 最後に火の神12 かくつち 伽具土を産んで陰部を火傷し黄泉の国へ下る。
- ・イザナギ・イザナミを祭る神社 滋賀県多賀町・多賀大社

5. 市杵島姫命【天神族】

いちきしまひめのみこと
市杵島姫命 [比咩神社(表能瀬)・津幡町史]
すざのおのみこと
父は素盞鳴尊・奥津島姫・市杵島姫・多岐津姫

- ・の美女三姉妹を宗像三神という。その中でも市杵島は, 神霊をいつき 斎きまつ 祀る島という意味で, 厳島神社は市杵島から転成したものという。三神のうち市杵島姫は特に美しく, 弁天様に例えられるほどの美人。
- ・航海安全・国家安泰・酒造の神

- ・京都市西京区・松尾大社 福岡県宗像郡・宗像神社（中津宮）

6-1. **応神天皇** 【天孫族】

応神天皇 [八幡神社（小熊）・池ヶ原神社（池ヶ原）]

- ・別名, 品陀和氣命・誉田別尊・大鞆和氣命
- ・ヤマトタケルの息子である第14代仲哀天皇と11神功皇后の子・第15代天皇となる。母・神功皇后（ときには父・仲哀天皇や武内宿弥）と共に全国に2万とも3万ともいわれる八幡神社の祭神。（1位は稲荷神社の3万2千社）百済や新羅から渡来人を受け入れ,新しい文化を招来した天皇。
- ・武運・交通安全・開拓・航海などの神
- ・大分県宇佐市・宇佐八幡宮, 京都府・石清水八幡宮, 神奈川県鎌倉市・鶴岡八幡宮

7. **大己貴命** 【地祇族】

大己貴命 [日吉神社（浦能瀬）]
大己貴神 [日吉神社（浦能瀬）・河北郡誌]

- ・別名, 大穴牟遲神・大国主命・葦原色許男神・八千戈神・大物主命・父・天之冬衣神, 母・刺国若比売命。
- ・因幡の白兔の伝説で知られる「大黒様」のこと。多くの妻と結ばれた豊福家。越の国（今の新潟県）の沼河比売命との間に「19建御名方神」が生まれた。
- ・国内安定・農業・医薬・温泉・漁業・縁結び・歌舞音曲と窓口は広い。
- ・羽咋市・気多神社, 札幌市・北海道神宮

8. **大瀧津日神** 【天神族】

大瀧津日神 [甲斐崎神社（大熊）]
大瀧津日命 [甲斐崎神社（大熊）・河北郡誌, 津幡町史]

- ・（別名）瀬織津姫神
- ・火傷で死んだ妻イザナミを尋ねていった黄泉の国から逃げ帰ったイザナギは, 筑紫の日向の橘

の小門の安波岐原で穢れを洗い落とすため禊ぎをしたときに, 水中に洗い落とされた穢れから生まれた神。祝詞などの呪いの言葉に関する神で, 神祭りのとき, 神に対して間違った言葉を奉じると災厄をもたらす。正しく祀れば凶事の災難から守護する力を下さる神。

- ・疫病除け・招福の神
- ・愛知県津島市・津島神社

9. **大宮比売命** 【天神族】

大宮比売命 [比咩神社（表能瀬）・津幡町史]

- ・別名, 大宮能売命・大宮売神。父はアマテラスの天岩戸隠れるとき, 櫛を抜き取り, これに八尺瓊勾玉, 八咫鏡・白い布などを掛けた大きな玉串を持ち, タヂカラオ, アメノコヤネ, アメノウズメなどと協力してアマテラスを引き出した天布刀玉命の子ともいう。
- ・市の神・食物神・商売繁盛・農業守護の神
- ・京都市・伏見大社上社

10. **大山咋神** 【地祇族】

大山咋神 [池ヶ原神社（池ヶ原）・加茂神社（加茂）]

- ・大山咋命 [日吉神社（浦能瀬）・加茂神社（加茂）・池ヶ原神社（池ヶ原）・河北郡誌]
- ・別名を山末之大主神といい, 山裾の神, 「山王さん」と呼ばれている。妻は建玉依比売命で, 京都の賀茂御祖神社（下鴨神社）祭神。古事記に「大山咋神は日枝山に坐します」とある。日枝山は比叡山。日枝は日吉とも書く。夫婦の子は賀茂別雷命で賀茂別雷神社（上賀茂神社）の祭神。

- ・土木建築・酒造の神

- ・東京都千代田区永田町・日枝神社 滋賀県大津市・日吉神社 京都市西京区嵐山宮町・松尾大社

11. **氣長足姫尊** 【地祇族】

氣長足姫尊 [八幡神社（裏舟橋）]

- ・別名, 息長帯比売命・大帯姫命といい神功

皇后のこと。夫の第14代仲哀天皇とともに九州の熊襲征伐に出たが、夫は敵の矢で死亡した。神功皇后は兵を率い、朝鮮の新羅を征伐する。帰国後生まれたのが「6-1 第15代応神天皇」。

- ・子授け・縁結び・安産・厄除けの神
- ・大分県宇佐市・宇佐八幡宮 福井県敦賀市・氣比神宮

12. 伽具土命【天神族】

伽具土命 [八幡神社(小熊)・河北郡誌, 愛宕神社(上矢田)合祀時]

- ・イザナギ・イザナミ夫婦の間で最後に生まれたのが「火の神」カグツチである。イザナミは陰部を火傷し、苦しみのあまり吐いた「へど」から生まれたのが、金山毘古神と金山毘売神。「へど」が溶鉄に似ているので二神は鉄を司る神。次に大便からは波邇夜須毘古神と波邇夜須毘売神、尿からは彌都波能売神と和久産巢日神が生まれた。この糞尿の神は、肥料として再生産に結びつく神。妻を死なせたカグツチを、父のイザナギは剣でその首を切る。その血からまた数々の神が生まれる。
- ・鎮火・火防の神・鋳業・製鉄・陶磁器の神。
- ・静岡県・秋葉神社, 滋賀県信楽町・陶器神社, 京都市・愛宕神社

13. 加茂神(賀茂別雷大神・玉依媛命・賀茂建角身命)【地祇族】

加茂神 [加茂神社(加茂)]

- ・京都市北区・上賀茂(賀茂別雷神社の祭神は賀茂別雷大神。
- ・京都市左京区・下鴨(賀茂御祖)神社の祭神は玉依媛命・賀茂建角身命。
- ・賀茂別雷大神は、「10 大山咋命」と玉依媛命の子。玉依媛命が瀬見の小川のほとりを散歩していると、上流から丹塗りの矢(実は大山咋命)が流れてきた。あまりに美しい矢なので拾い上げ、自分の床の傍らに飾り立てて、日夜眺めていた。まもなく妊娠し、生まれたのが賀茂別雷

大神。落雷および稲作の神・厄除け開運の神。

- ・玉依媛命 父・賀茂建角身命, 母・伊賀古夜比売。
- ・賀茂建角身命 造化三神の一人である神産巢日神の孫。神武天皇東征の際、大軍を率いて参戦している。脚氣・幼児の疳の虫・無病息災・縁結び・安産の神。

14. 菊理媛命【地祇族】

菊理媛命 [白山神社(興津)・河北郡誌, 白山社(菩提寺), 白山神社(御門)・河北郡誌]

菊理比咩命 [出雲神社(種)・河北郡誌]

菊理媛神 [白山神社(平野)・白山神社(御門)]

菊理媛命 [白山神社(御門)・津幡町史]

- ・白山比咩神のこと。全国3千社を超える白山神社があるが「古事記」には全く登場せず、「日本書紀」に1箇所だけ登場する女神。古代東北アジアのシャーマン(巫女)の系統の説が有力。「くくる」は「水くくる」で「襖」の意。死霊の宣託を語ったイタコの如き女神。古代アジアのツングース系民族の「白山部」という支族のなかで生まれた「白頭山・太白山」信仰が日本海を渡ったなどの説がある。イザナギ・イザナミ・ククリヒメの三神が白山の祭神。
- ・五穀豊穰・生産繁盛・開運招福
- ・石川県白山市・白山比咩神社

15. 木花開耶姫命【天神族】

木花開耶姫命 [富士神社(領家)]

- ・別名, 吾田鹿葦津姫命, 大山祇命の末娘。「2 二二ギ」と結婚。海幸彦・山幸彦を産む。神武天皇の曾祖母。花に例えると「桜」山に例えると「富士山」というほどの美人。
- ・酒造・山火鎮火・五穀豊穰・養蚕・良縁・安産の神
- ・静岡県富士宮市・浅間神社 鹿児島県霧島町・霧島神社

16. 菅原大神【人物神】

菅原大神 [水上社(中山)]

- 菅原道真のこと。菅原是善の三男。政敵の讒言により太宰府に流され、その地で没した。彼の死後、朝廷に不幸が続き、落雷や早魃の天才が続いた。これは道真の怨霊が雷神となったためと考え、天神の信仰が生まれた。また前田家は菅原家を先祖と称していたので、特に天満宮を大切にした。道真公は丑年に生まれ、丑年に死んだとされ、神社境内に牛の像を置いた天満宮が多い。
- 学問の神・雷避けの神。
- 京都市・北野天満宮 福岡県太宰府市・大宰府天満宮

17. ^{すくなびこのかみ}**少名彦神**【天神族】

- ^{すくなびこのかみ}少名彦神 [水上社 (中山)]
- ^{すくなびこのみこと}少名彦命 [水上社 (中山)・河北郡誌]
- ^{すくなびこのみこと}少彦名神 [富士神社 (領家)・河北郡誌]
- ^{すくなびこのみこと}少彦名命 [富士神社 (領家)]
- 父は神産靈日神。オオクニヌシと二人で国造りに励んだ小さな神。「アメノカガビブネ」に乗って光り輝きながら現れた。オオクニヌシが病気になったとき、別府温泉 (道後温泉とも) から出雲まで竹樋で湯を引き、治した。
- 温泉・医薬・国土開発・穀物・酒造の神
- 横浜市緑区・医薬神社 大阪市東区道修町・少彦名神社

18. ^{すさのおのみこと}**素戔嗚尊**【地祇族】

- ^{すさのおのみこと}素戔嗚尊 [出雲神社 (種)]
- イザナミがミソギをしたとき、鼻から生まれた神。乱暴が過ぎたので、アマテラスが天岩戸に隠れてしまい、高天原から追放された「荒ぶる」神。出雲に降臨。ヤマタノオロチを退治した英雄。牛頭天王と同一神。全国の八坂 (祇園・弥栄)、津島 (天王)、氷川と呼ばれる神社の祭神。
- スサノオを祀る神社の祭りは「喧嘩祭り」「あばれ祭り」などと呼ばれる荒っぽい祭りが多い。
- 農業・疫病送りの神
- 名古屋市・熱田神宮、京都東山区・八坂神社

19. ^{たけみなかたのかみ}**建御名方神**【地祇族】

- ^{たけみなかたのかみ}建御名方神 [甲斐崎神社 (大熊)・神社誌, 加茂神社 (加茂)]
- ^{たけみなかたのみこと}建御名方命 [甲斐崎神社 (大熊)・河北郡誌, 加茂神社 (加茂)・河北郡誌]
- ^{たけみなかたのかみ}建御名方神 [諏訪社 (下矢田)]
- 大国主命の子。高天原から国譲りの交渉に来た建御雷之男神と争い、敗れ、出雲から科野 (信濃) の洲端 (諏訪) まで追われ逃げた。
- 土木・開拓・農耕・養蚕の神。狩獵神。
- 長野県諏訪市・諏訪大社上社 長野県下諏訪町・諏訪大社下社

20. ^{はちまんのかみ}**八幡神**

- ^{はちまんのかみ}八幡神 [八幡神社 (谷内), 加茂神社 (加茂)・津幡町史]
- 「6-1 応神天皇」(「6-2 誉田別尊」), 「11 気長足姫尊」・武内宿弥、ときには仲哀天皇が八幡の神とされる。
- ^{ひめのおおかみ}21. **比咩大神**
- 比咩神とは普通男神の妻で、名が記されない女神である。
- 比咩神社 (表能瀬) の比咩は、「5 市杵島姫命」か、「9 大宮比売命」のいずれかであるが、「5」ならば航海安全・酒造の神、「9」ならば市神の性格を持つ。能瀬という地にはどちらも合致する。
- 八幡神社 (裏舟橋) の比咩は、「6-2 誉田別尊」の妻と思われる。

6-2. ^{ほんだわけのみこと}**誉田別尊**

- ^{ほんだわけのみこと}誉田別尊 [八幡神社 (裏舟橋)]
- ^{ほんだわけのみこと}誉田別命 [甲斐崎神社 (大熊)・河北郡誌, 八幡神社 (裏舟橋)]
- 「6-1 応神天皇」の別名

22. ^{やさかとめのみこと}**八坂刀売命**【地祇族】

- ^{やさかとめのみこと}八坂刀売命 [甲斐崎神社 (大熊)・河北郡誌]
- ^{やさかとめのみこと}八坂刀売命 [甲斐崎神社 (大熊)・津幡町史]
- 「19 建御名方神」の妃神

以上，種谷・英田地区の神社の祭神は22柱である。

おわりに

- ・種谷・英田地区の神社の境内には，俱利伽羅谷，笠谷と同様，五輪塔，宝篋印塔などの石塔が多い。山間部でも萩坂谷には少なく，津幡・中条，井上地区には全く無い，若しくは少ない。これらは中世の墓石であり，本来「清浄」を旨とする神社境内にはふさわしくない。
- ・数が多いのは領家，御門であるが，下矢田の諏訪神社の五輪塔は比較的大きく，地・水・火・風・空の五輪が完全に揃っているものもある。水輪の部分に，梵字が刻してあり，苔むして，杉，椿の古木の根元にひっそりと安置されている。
- ・数年前，中央公民館での郷土史講座の際，上矢田「愛宕神社」の氏子を証明する杉板製の鑑札を持ってこられた方がいた。確か明治4年高松の神主名で書かれたものだったと記憶している。記された名は，持って来られた方の祖父か，曾祖父のものだった。江戸期，加賀藩領以外の地へ旅する時は，檀那寺の住職や名主(十村?)などの身元証明書を持参するが，明治の初期は集落の宮司(江戸期，僧職を兼務することが多かった)が証明したものと思える。現在，上矢

田「愛宕神社」の神職は清水の加藤氏である。加藤氏は明治6年石川県より「愛宕神社」を含む19村の神社を司ることを命ぜられている。それ以前は高松の神職だった。津幡町史(418ページ)によれば，「高松町瀬戸の瀬戸菅原神社の宮司瀬戸氏は，明治初年，当山流山伏天竜寺が復飾した家柄で，平野や上矢田の神社に，万延元年(1860)の別当大海山天竜寺清寿院代の祈祷札がある」と記されている。

- ・明治40年代に1集落1神社に統合する動きがあった。この地区では1集落2神社の所が能瀬・舟橋の2箇所ある。町内では津幡，川尻，太田にも2社ある。
- ・種谷には鉱泉があり，中山では近年まで「湯座屋」があり，上矢田では今でも営業している。領家にもあったという記録は未だ見ていないが，可能性はあると思われる。

参考文献

- 石川県神社誌．1976．石川県神社庁．
 石川県河北郡誌．1921．石川県河北郡役所．
 石川県の地名 日本歴史地名体系17．1991．若林喜三郎(監)．平凡社．
 加賀志徴．1937．石川県図書館協会．
 津幡町史．1974．津幡町役場．